

令和3年度 徳島大学大学院 創成科学研究科修士課程

臨床心理学専攻 I期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙6枚の、合計7枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5問である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その1

第1問 次の英文を読み、下の問1～4に日本語で答えよ。

The aim of our trial was to answer the question: Does mindfulness-based cognitive therapy (MBCT) reduce rates of relapse and recurrence in patients who have recovered from major depression, compared to the treatment that such patients would normally receive? In our three-center clinical trial to evaluate MBCT, we recruited 145 patients who had recovered from major depression, that is, patients who had previously experienced episodes of major depression but had been well for the last 3 months, with no more symptoms of depression than one might expect of anyone in the normal population. These patients were randomly assigned to one of two conditions. In the first condition (treatment-as-usual), patients continued with the treatment that they would normally receive, including seeking help, as they needed it from other sources, such as their family doctor. In the second condition, patients took part in the eight sessions of the MBCT program. To enter the trial, patients had to have had at least two previous episodes of major depression (in fact, 77% had experienced three or more). All patients had previously been treated with antidepressant but had been off medication for at least 3 months before entering the trial.

The outcome that most interested us was whether patients experienced a relapse or recurrence of their depression in the 60 weeks after their baseline assessment. As is conventional, before conducting the main statistical analyses of such a trial, we first checked that the effects of treatment being compared were the same in patients in the different groups (strata) that stratification creates. When we did this, we found that, compared to treatment as usual, MBCT was not as effective in patients with only two previous episodes as in patients with three or more previous episodes of depression; there was a statistically significant difference between these two groups in the extent to which reduced relapse compared to treatment as usual. In patients with three or more episodes (77% of the total sample), MBCT significantly reduced relapse compared to treatment as usual; in patients with only two episodes (23% of the total sample), there was no difference in relapse rates between patients receiving MBCT and treatment as usual. In other words, the beneficial effects of MBCT were shown only in the patients with more extensive histories of depression.

出典： Z. V. Segal, J. M. G. Williams, & J. D. Teasdale, *Mindfulness-based cognitive therapy for depression: A new approach to preventing relapse* (2002), New York: Guilford. より一部改定して抜粋

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その2

問1 本研究の目的を日本語で述べよ。

--

問2 本研究の方法の概要を日本語で述べよ。

--

問3 下線部を和訳せよ。

--

問4 本研究の結果の概要を日本語で述べよ。

--

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その3

第2問 心理学に関連する、次の語 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群ア～ノのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|------------------|-------------|--------------|----------------|
| 1. 知能の2因子説 | 2. 感情の末梢説 | 3. 短期記憶 | 4. 囚人のジレンマ |
| 5. 生成文法 | 6. 活性化拡散モデル | 7. 道徳性の発達 | 8. 自己呈示 |
| 9. ビッグファイブ | 10. ガルシア効果 | 11. 自己中心性 | 12. 睡眠段階1（入眠期） |
| 13. マガーク効果 | 14. 汎適応症候群 | 15. 注意の初期選択説 | 16. パンデモニアムモデル |
| 17. 説得的コミュニケーション | 18. 効果の法則 | 19. 愛着 | 20. 集団凝集性 |

語群

- | | | | |
|---------------|-----------------|------------------|------------|
| ア. θ 波 | イ. セルフサービングバイアス | ウ. 疲憊期 | エ. プライミング |
| オ. 前慣習的水準 | カ. 錯覚 | キ. ジェームズ・ランゲ説 | ク. パターン認知 |
| ケ. ゲーム理論 | コ. 味覚嫌悪条件づけ | サ. 粘着気質 | シ. 安全基地 |
| ス. ソシオメトリー | セ. 同調 | ソ. セルフハンディキャッピング | タ. 両耳分離聴課題 |
| チ. 試行錯誤学習 | ツ. α 波 | テ. キャノン・バード説 | ト. 深層構造 |
| ナ. 一般因子（g 因子） | ニ. 前操作期 | ヌ. 維持リハーサル | ネ. 調和性 |
| ノ. 精緻化見込みモデル | | | |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第3問 心理学実験に関する次の文章を読み、それに続く問1～4に答えよ。

Aさんは、1 kHz 純音に対する①絶対閾が、測定手法により異なるのかどうかを調べるため、実験参加者10名全員に②調整法、極限法、恒常法の3つの手法で閾値測定を実施し、測定手法間で比較した。

問1 下線部①音の絶対閾を簡潔に説明せよ。

--

問2 下線部②の3つの方法をまとめて何と呼ぶか。

_____法

問3 下線部②の各測定手法について音の絶対閾測定を例に説明せよ。その際、上昇系列、下降系列という語を適宜使用すること。

--

問4 下記の記述が本実験のデータ処理として正しい場合は○，誤っている場合は×を解答欄に記入せよ。

- 1) 3つの手法により閾値計測を実施したため、データ解析法として3要因分散分析を用いる。
- 2) 参加者(被験者)内要因の水準が3つあるので、分散分析実施の際には、球面性を検討する必要がある。
- 3) 分散分析の結果、主効果が有意であった場合には、TukeyのHSD法による多重比較で、どの水準間に差があったかを検定する。
- 4) データ分析にて報告する効果量として、偏イータ2乗は不適切である。

解答欄 1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____

小計	
----	--

受験番号

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その5

第4問 心理学に関連する、次の文章を読み、それぞれの内容と関連が最も深い語を、下の語群 a～zの中から一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. ジョーム (Anthony F. Jorm) は、心の健康についての知識をもち、自らの精神障害を予防したり、早期発見を目指したりするなど、心の健康を維持するスキルについて定義し、実践研究を重ねている。
2. 過去に独立して実施された複数の治療効果研究の結果を統合し、それらを用いて解析を行う方法。
3. トールマン (Edward C. Tolman) は、刺激と反応の間に、直接観察できないものの存在を推測しうる要因 (例えば、「期待」などの認知的要因) が学習に媒介していると考え、理論を展開した。
4. 自己効力感を構成する要素の一つであり、当該の行動が意図した結果を生むかどうかという予期のこと。
5. 幼少時または成人後に深刻なネグレクトまたは虐待を繰り返し受けたり、拷問や虐待を伴う監禁など、成人してから深刻な暴力行為や虐待を繰り返し受けると、単回のトラウマティック・ストレスによって生じる心的外傷後ストレス障害 (PTSD) とは異なる病態や症状を呈することがある。
6. 京都市児童院 (現京都市児童福祉センター) で開発された発達の精密な観察に基づく検査であり、乳幼児や児童の発達の状態について、「姿勢・運動」、「認知・適応」、「言語・社会」の3領域にわたってとらえることができるように作成されている。
7. 「聞き取りによる対象者への負担を軽減する」、「聞き取る内容が面接による誘導の結果ではないかという疑念がもたれる可能性を極力排除する」、「対象者の関わった事件が何らかの作為による虚偽の話ではなく実際の出来事であるかどうかを検討するための情報を得る」といった目的に基づき、主に子ども、障害者、社会的弱者を対象に用いられる面接手法のこと。
8. クライン (Melanie Klein) は、個人が抑うつや不安のもたらし感情 (罪悪感など) に耐えきれない場合に、この不安と苦痛を排除する防衛メカニズムについて概念化している。
9. ショプラー (Eric Schopler) らは、自閉スペクトラム症者を対象とした治療教育プログラムを開発している。このプログラムでは、対象者の特性を尊重し、彼らの特性と教育や生活環境が適合しやすくなるよう、視覚・物理的な構造化に重点を置く。
10. マスメディアによる情報・報道が、一般市民の自殺を抑制する効果のこと。例えば、過酷な環境下において自殺念慮を有する個人がこれ乗り越え、克服したことを報道することは、自殺予防効果を高めるといった報告がある。

語群

- a. 田中ビネー知能検査 b. 効力予期 c. 否認 d. 参与観察 e. TEACCH f. Werther 効果 g. 新行動主義
h. 新版 K 式発達検査 i. メタ分析 j. 持続性抑うつ障害 k. 心理教育 l. 躁的防衛 m. 動機づけ面接
n. 複雑性 PTSD o. メンタルヘルスリテラシー p. 情報処理理論 q. 結果予期 r. 徹底的行動主義 s. CARS
t. Papageno 効果 u. 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査 v. 皮肉効果 w. アクティブリスニング x. 遅発性 PTSD
y. 司法面接 z. 系統的レビュー

解答欄

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記号										

小 計

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その6

第5問 精神疾患に関連した操作的診断基準に関して、問1～2に答えよ。

問1 精神疾患に関する操作的診断基準とはどのようなものか、具体的な診断基準名を挙げながら説明せよ。

--

問2 精神疾患に関する操作的診断基準を用いることの意義と留意点について説明せよ。

--

小 計	
-----	--

合 計	
-----	--